

全3回、合わせて5日間受講

「支え合い「マツブ」」とは、住民相互の支え合いを線で結ぶことにより、地域のつながりを確認できる地図です。

地域の気になる人等に対して地域の支え合いを活かした住民主体での支援を考え、取組につなげる有効な手法の一つであり、また、災害時

受講定員32人。対象者は本会主催の地域福祉活動コーディネーター(CS)養成研修修了者、市町村社協職員、地域包括支援センター職員等、支え合いマップづくりを業務や活動に活かすことができる立場にあります。

は、2日間にわたって講義「支え合
第1回の養成講座(6月20・21日)



住民福祉総合研究所所長
木原 孝久 氏

40年以上にわたって住民流の福祉のあり方を追い求める中で、住民の助け合いの実態を把握する「支え合いマップ」を開発するとともに、「助けられ上手講座」の開催支援や「ご近所福祉サポーター」の養成など、住民流の福祉を定着させるための各種事業を展開。日本人のおつき合いの習慣が助け合いを阻んでいることに着目、「おつき合い革命」を訴えています。



近所弁の地図福祉

平成28年度 支え合いマップ・インストラクター養成講座 開催

の要援護者の安否確認、避難支援を迅速に行うためのツールとしても活用されています。

岩手県社会福祉協議会主催の平成28年度支え合いマップ・インストラクター養成講座は、住民流・福祉総合研究所所長木原孝久氏を講師に、全3回（6月20日から10月13日までの合わせて5日間）にわたって実施されています。

いマップづくりのための基礎知識」と、演習・グループワーク「聴取と取組課題の抽出」が行われました。講義では、効果的に支え合いマップづくりを実践するため、事前に知つておくべき事柄（※住民流福祉の理解、支え合いマップづくりの目的と概要）と、最も重要な住民への聴取技術について学習しました。

1日目の講義では、▽「福祉マップ」と「支え合いマップ」の違い▽

マツフづくりで必ず守ること▽との
ようなことを調べるのか▽要援護者の
の見守り状況を調べる▽要介護者は地域
困りごとを調べる▽要介護者は地域
で豊かに暮らしているか▽マツフづ
くりはご近所福祉をめざす▽問題の
解決策を抽出するコツ▽「聴取」は
このようになど、受講者の質問に応
じながら詳しく説明しました。

グループで聴取と取組課題を抽出

「聴取と取組課題の抽出」では、ダーリープごとに事例に基づいたマップづくりを行い、その結果から、取組課題を抽出する技法を学びました。講師の木原氏は「問題さがし」の基本的な心構えとして、「何としても何らかの問題は見つける」という強い姿勢が必要。福祉の理想を終始意識すること。福祉のめざすものを見失つたら、聴くことがなくなる」と強調する。さらに、「扱いの手主導・推進者主導は改める」とことなどについて述べました。



平成28年度 支援会員マップ・インフラクター養成講座

一一一

- 〔第1回〕

 - 6月20日 会場：釜石市青葉ビル1階研修室
講義 「支え合いマップづくりのための基礎知識」
 - 6月21日 会場：釜石地区合同厅舎4階大会議室
演習 「隣町と取組調整の抽出」

[第3回]

- 〔第2回〕

 - 7月21日 会場：釜石地区合同庁舎4階大会議室
演習 「講師による支え合いマップづくりの実演」
 - 7月22日
演習 「受講者による支え合いマップづくりの実演」

[第3回]

- 10月13日 会場：釜石地区合同庁舎4階大会議室
演習「支え合いマップ宿題実習の発表」

最終の第3回は、宿題実習の成果を発表し、講師から講評を得るとともに、これまで学んだことや今後の課題を確認することとしています。

同養成講座には釜石市社協地域福
祉課長兼生活ご安心センター副所長
の菊池亮氏が協力し、第2回の演習
「講師による支え合いマップづくりの
実演」及び「受講者による支え合い
マップづくりの実演」には、釜石市
内数地区の住民（約30名程）が参加
協力。受講者は住民への聴取を基に、
課題と解決策を整理しながら、マッ
プづくりを行います。

また、マップづくりの留意点の一つとして、「地域課題にもつと目を向ける必要がある。ただ課題を出すだけではなく、ご近所、自治会、校区、市町村域の4層のどこがどういう役割を果たすべき今まで整理する必要がある」と述べました。